

平成26年第2回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	13番	濱中俊男 (55分)	<p>1. 将来の活力と人口について</p> <p>(1)人口推計について</p> <p>①当市の人口は今後どのように推移すると考えているか。また、50年後の2060年代の人口推計はあるか。</p> <p>② ①の人口で将来にわたっての活力は維持できると考えているか。</p> <p>(2)出生率について</p> <p>①今までの合計特殊出生率の推移は。また、今後の推移の予測は。</p> <p>②「選択する未来」の中間報告では、2030年に出生率を2.07に引き上げるとしている。出生率の引き上げについての市の考えは。</p> <p>(3)「婚活」について</p> <p>①多くの自治体が「婚活」の支援に乗り出している。市の考えは。</p> <p>(4)魅力ある街づくりについて</p> <p>①人口減少社会においては、今まで以上に都市間競争が激しくなる。繁栄するためには都市の魅力が求められる。魅力ある街づくりについては、どう考えるか。</p> <p>2. 中学生の職場体験について</p> <p>(1)目的について</p> <p>①羽村市において行うようになったいきさつは。</p> <p>②職場体験を行う目的は何か。</p> <p>③期間を5日間としている理由は。</p> <p>(2)受け入れ事業所について</p> <p>①どのように選定しているか。</p> <p>②生徒の希望と見合った事業所となっているか。</p> <p>③生徒が事業所を事前に訪問するときの自己紹介文や事後の感想文・壁新聞等は、3校で大きく異なる。より良い方向で統一できないか。</p> <p>(3)成果について</p> <p>①生徒にどのような変化が感じられるか。</p> <p>②事業所からは、どのような声が届いているか。</p> <p>③職場体験の成果についてどう総括しているか。</p> <p>④今後の課題についてどう捉えているか。</p>	6月9日

1. 「人生 90 年時代」にふさわしい街づくりを進めよう！

(1) 今後、増えていく一人暮らし高齢者への支援策をどのように図っていくのか。

- ① 身寄りがいない一人暮らし高齢者の身元保証の問題を羽村市としてどのように解決、支援していくか。(例 施設入所、賃貸住宅入居などの場合の身元保証人問題)
- ② 今後増えていくであろう、一人暮らしの高齢女性の貧困問題についてどのように対策を講じていく考えか。

(2) 高齢者の方が生涯現役で過ごすことができる街づくりについて

- ① 高齢者 (65 歳以上) の就労支援、就労先の拡大をどのように図っていくか。
- ② シルバー人材センターの受注開拓の推進に向けた支援を具体的にどのように図っていく考えなのか。
- ③ 高齢女性に対する職業能力開発の機会の提供や就業相談を積極的に進めてはいかか。
- ④ 生涯学習の一環として、いつまでも活躍しつづけられる情報が提供される、リタイア研修プログラムを市内企業、大学と連携し、開発してはいかか。

(3) 高齢者の健康維持、向上をさらに図るための支援について

- ① 平成 26 年 2 月に行われた「羽村市の健康づくりに関する市民意識調査」はなぜ、60 歳以上を対象外としたのか。
- ② スポーツセンターで実施している体力測定を 79 歳までとしている理由は何か。
- ③ 高齢女性のメンタルヘルス問題について、どのように取り組んでいくか。

(4) 人生 90 年時代に即し、現役時代からのライフプラン、キャリアビジョンに関する施策、支援をどのように図っていく考えか。

2. 広めよう！「羽村市の歌」

(1) 羽村学の目的のなかには「羽村の郷土を愛し」「羽村の良さに気付き」とある。「羽村市の歌」の歌詞には羽村の良さが盛り込まれている。

羽村学が郷土を愛す子どもたちを育てることを目的としているが児童・生徒たちは「羽村市の歌」を知っているのか。歌ったことがあるのか。

(2) 市や学校の式典や行事などで市の歌である「羽村市の歌」を積極的に歌う、流すなどするべきではないか。

(3) 市の公式な歌である「羽村市の歌」を市民誰もが知っている、歌えることができるようにするために現在行われている施策以外に何かプランを考えているか。

1. 羽村市環境とみどりの基本計画について

(1) 市は今回の計画で、主にどこを見直しどのような未来像を描いているのか伺う。

(2) 都市環境分野について

① 愛護動物の適正飼養のなかで、犬のふんの放置や飼い主のいない猫に関する「無責任なエサやり」などのマナーに対する市の取り組み効果と、さらなる今後の推進について伺う。

② 犬の散歩中に、まちの安全やポイ捨てを見守る「ワンワンパトロール」を結成し、協力して頂いてはどうか。

③ 動物愛護管理法では、動物が自己の所有であることを明らかにするよう所有者に求めているが、飼い犬や飼い猫に、愛護動物の名札表示や、マイクロチップ導入などをどう推進していくのか。

④ さらにゴミを減量するための今後の取組みを伺う。

⑤ スマートフォンを活用したゴミ出しアプリで、市民の利便性向上を図ってはどうか。

(3) 自然環境分野について

① 環境省は、生物多様性国家戦略のなかで、絶滅のおそれのある野生生物を「国内希少野生動植物種（89種）」として指定しているが、羽村市動物公園などに該当する動植物はどんなものがあるのか。今後どのように保全やPRを行っていくのか伺う。

② 今後の緑化の推進は、どのように図るのか伺う。

(4) 地球環境分野について

① 徳島県佐那河内村では、農家も寄付者も利益を受けるシステムを1口1万円で寄付を募り、地元の野菜で還元する農家のソーラーシェアリングの仕組みを作っているが、市は地産地消のエネルギーを市民協働でどのように推進するのか伺う。

② 公共施設への太陽光発電や、小水力発電など再生可能エネルギーを今後どのように推進し、スマートシティに繋げていくのか伺う。

③ 自宅の太陽光パネルの設置可能容量や予測発電量等を調べられる「東京ソーラー屋根台帳」（都の関連団体運営）の活用を、今後どのように図るのか。

2. 女性と子どもの貧困を克服できる体制を

(1) 女性の貧困や子どもの貧困についての認識や役割を、市はどのように考えているのか。

(2) ひとり親家庭の貧困率は約半数と言われているが、空き家等を活用し、ひとり親家庭や住宅に困窮している单身女性向けのシェアハウスを促進する仕組みを構築し、住まいの安心・安全を確保してはどうか。

4 人目

10 番

小 宮 國 暉
(60 分)

(3) 教育格差が指摘されているなか、生活保護や貧困家庭のための学習ボランティアに、元教員や大学生などの協力のもと支援体制が必要と考えるが、市の対策について伺う。

3. 女性の健康と産前産後のサポートについて

(1) 羽村市の若年女性の減少は、2040 年にどのようになると予測し、どのような支援が必要と考えているか。

(2) 市として、産前産後の女性の心身の変化や必要な支援、新生児の世話などについての基礎知識とスキルを習得し、「産前産後ケア」の女性をサポートできる人材を養成してはどうか。

(3) 男性が原因の不妊も 4 割と言われているが、男性への検査や治療は遅れがちで、数年後に男性が原因と分かった頃には女性は妊娠が不可能な年齢になっていたという例もあると聞く。検査は夫婦でとの男性の意識啓発も含め、男性の不妊治療にも助成を行ってはどうか。

1. 業務のスピードアップについて

(1) 業務の効率化を図るためには、業務を改善していこうとする職員意識を高めていくことが重要であると考えているが、市は職員に対して、どのような取組みを励行しているか。

(2) 近年、職員から提案された業務改善にはどのようなものがあり、その成果をどう捉えているか。

(3) 過去 3 年間において、職員提案により採用した業務改善に「スピードアップ」に関するものはあったか。

(4) 以前私が提起した以下の課題に関して、市は現在どのように取り組んでいるか。

① 宮の下地区の多摩川堤防と羽中 4 丁目付近の浸水対策

② 羽村駅東西自由通路の拡幅

③ 羽村西小学校奥多摩街道沿いのクスノキの根による歩道上の段差解消

(5) 市では第五次羽村市長期総合計画において、平成 26 年度に「経営管理システムの構築」としているが、その中には「業務のスピードアップ」を掲げる考えはあるか。

2. 認知症対策及び介護予防対策について

(1) 2025 年問題について、市は高齢化率等をどのようにとらえているか。その問題・課題は何か。

(2) 認知症対策について

① 昨年 6 月の議会において 認知症サポーター養成講座として市内の小中学生などに働きかけていくとの市長答弁があり、本年 3 月には、

6 月 9 日

5 人目

12 番

石 居 尚 郎
(60 分)

中学生に対して養成講座を実施する予定であるとのことであったが、その具体的な内容を伺う。

②認知症を早期発見し早期診断を促すための医療機関との連携について、具体的取組みと実績状況について伺う。

(3)介護予防対策について

①老人クラブの活動は介護予防に大きな効果があると考え。市として積極的に支援してはどうか。

②先般(2月下旬)、地域の会館で行っている「まいまい健康教室」がテレビはむらで放映されたが、参加者は年々増加しており、非常に望ましい介護予防事業であると考え。このような活動機会を増やし、介護予防に繋げてはどうか。

3. 障害者スポーツの推進について

(1)羽村市は今年度策定を予定している羽村市スポーツ推進計画において、障害者スポーツの分野についても盛り込んでいくべきと思うが推進計画の基本的考え、方針等について伺う。

(2)障害者がスポーツを行っていくうえで最も必要とされているのは、障害者が安全にスポーツを楽しむことができる施設の整備であると考え。現状スポーツセンター、スイミングセンター、公園等の施設整備を点検・見直しを実施すべきと考えるがどうか。

(3)市は障害者スポーツ・レクリエーションを年1回行っているが、社会参加、スポーツの推進、介護予防等さらなる充実した内容プログラム等の工夫が望まれるがどうか。

(4)障害者スポーツ推進団体である「公益社団法人・東京都障害者スポーツ協会」との連携を行い、スポーツ大会への見学応援や障害者スポーツへの市民への啓発活動を進めたらと思うがどうか。

1. 子ども子育て支援新制度本格実施に向けて

(1)新制度の目的である幼児教育の提供体制を確保するためには、羽村市においても国の示す水準に基づく施設型給付をしっかりと支援できるようにすべきではないか。

(2)新制度においては、私立幼稚園で実施されている「預かり保育」は、私学助成ではなく、市町村が幼稚園に委託して実施する「一時預かり保育」として実施されていくことになる。新制度への移行により、羽村市において、私立幼稚園の預かり保育の利用

6月9日

ができず、保護者の混乱を招くことのないよう、現在預かり保育を実施している私立幼稚園に対し「一時預かり事業」を確実に委託していくべきと考えるが、いかがか。

(3) 羽村市の新制度への取組み等について、市民や保護者等への周知・説明はどのように行っていく予定か。

(4) 5月20日付けで、「羽村市子ども・子育て支援事業計画に関する調査報告書」が配布された。この調査結果をどのように分析しているか。

(5) 現在実施している、羽村市子ども子育て会議の概要と進むべき方向性を聞く。

(6) 本年度より実施するインクルーシブ教育における幼稚園・保育園への支援策についてどのような取組みをしていくのか。

(7) 幼・保・小の連携強化をさらに図るべきではないか。

2. 文化・芸術のまち、羽村の創出を

(1) これまでの羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」の事業・運営をどのように総括しているか。

(2) より親しまれ、多くの方が利用できる施設となることを望み質問する。

① ゆとろぎの活用について利用者からどのような声が寄せられてきているか。

② ゆとろぎの利用を様々な観点から見直し、利用者目線でもっと柔軟に利用できるよう工夫すべきと考える。そのための具体的施策を聞く。

(3) 市民との協働と支援策について今後の方向性を聞く。

① ゆとろぎ協働事業運営市民の会との協働と支援について

② 羽村市文化協会との協働と支援について

③ その他の団体・個人との協働と支援について

④ 羽村市は、今後の協働と支援のあり方をどのように考えていくのか。

(4) 公民館時代からの社会教育活動や音楽のあるまちづくりの推進など、以前より文化・芸術に力を注いできている。その成果として文化・芸術の担い手が羽村市より育ってきていると聞いているが、市の認識は。

(5) 若き文化・芸術の担い手がさらに陸続と育っていくために、次代を担う若き芸術家やその志望者に光を当てた事業を企画してはどうか。

(6) ゆとろぎ開設10周年に向けて、どのような企画を検討しているか。

(7) ゆとろぎ開設10周年となる来年は、戦後70年の節目となる重要な時を迎える。この節目に、二度と戦争をおこさないという、恒久平和のための事業をどのように企画・検討しているか。

6 人目

2 番

富 松 崇
(50 分)

(8)文化・芸術施策を進めることにより、観光振興やまちづくりにどのように連動させていくのか。

1. 魅力ある住みやすい街づくりについて

- (1)これまで定住人口を増やす施策は行われてきたか。
- (2)これまで人口減少を抑制する施策は行われてきたか。
- (3)市では少子高齢化、人口の減少をどのように考えているか。
- (4)国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を上回るペースでの人口減少となっているが、どのように考えているか。
- (5)市外への転出者について、どのような年齢層・理由などは調査しているか。
- (6)都内からのアクセス向上も住みやすい街づくりに効果があると思うが、青梅ライナーの羽村駅停車をJRに働きかけてはいかがか。
- (7)子育てしやすい街を目指すことで若年層の転入も期待できると思うが、現在の保育園や幼稚園・公園や児童館などのさらなる充実を考えてはいかがか。
- (8)羽村駅西口基盤整備は安心して住める街づくりを目指す上で、重要な施策だと思うが急ぐ考えは。
- (9)魅力ある住みやすい街づくり施策を考える上で今後、中心になる若年層の考えを取り入れることが必要だと思うが、今年度から始まった「若者フォーラム」でこれからの街づくりについて考えてはいかがか。

6 月 10 日

7 人目

4 番

富 永 訓 正
(60 分)

1. 高齢者・障がい者にやさしい支援について

- (1)認知症や知的障害、精神障害などで判断能力が十分でない方に対して、法的な権限を持ってサポートする「成年後見制度」について伺う。
- ①本年4月1日に「羽村市障害者成年後見制度利用支援事業実施要綱」が施行された。この要綱の特徴と、どのような方が新たな対象者と成り得るかを伺う。
- ②高齢者、認知症などの方に対する同様の施策の必要性に対する考えを聞く。
- ③これからのニーズ増大をにらんだ、「市民後見人」など今後の制度の担い手育成について市の見解を聞く。

6 月 10 日

- (2) 障害や難病を抱えた人が必要な支援を予め記しておき、緊急時や災害時などの困った際に提示して周囲の配慮や手助けをお願いしやすくする「ヘルプ・カード」について聞く。
- ①平成 25 年 6 月時点での対象者は、障害者手帳保有者、難病患者の方、計約 2,400 人。配布実績は約 300 組であった。1 年経過した現状と周知への取組みについて伺う。
 - ②「ヘルプ・カード」の配布方法の見直しや、さらに広く周知する必要があるがいかがか。
 - ③カードの普及と併せて広域的な観点から、よりカードを使いやすいような支援環境を整えていくことが必要であると思われるが、市の考えを伺う。
- (3) 障害のある方のため及び周囲の方への配慮を促す「シンボルマーク」には多様なマークがある。「介護マーク」「車いすマーク（障がい者のための国際シンボルマーク）」「視覚障がい者のための国際シンボルマーク」「ハート・プラスマーク」「耳マーク」「ほじょ犬マーク」「オストメイトマーク」などの市民へのさらなる周知や普及について市の考えを聞く。
- (4) 視覚障がい者のみならず視力が低下した高齢者など、読み書きに支障がある人への支援の必要性の声が高まってきている。平成 25 年 4 月に施行された「障害者総合支援法」の実施要綱に自治体が行う支援の一つとして代読や代筆が明記されたこともあり、今後、潜在的なニーズを含めて、読み書きが困難な方への支援の必要性は一層高まると考えられるが、市の見解を伺う。
- (5) 低所得・低年金で、財産・預金がない、高齢で仕事ができないなど、生活保護に至るボーダーラインぎりぎりの高齢者世帯の方々に、日々の生活に逼迫している例がある。こうした低所得・低年金の高齢者世帯の生活支援について伺う。
- ①施設入所費などのほか、入院費・医療費、介護費などで急な出費が重なった場合、生活が立ち行かなくなる例がある。市では、このような方々に対する救済措置をどのように考えるか。
 - ②緊急避難的な措置として、限定的なものだとしても家賃補助制度、緊急融資制度など、その世帯にあった新たなセーフティーネットが必要ではないか。
- (6) 高齢者を含め市民の方には様々な複合的な問題を抱えている方がいる。そうした場合に一括で対応できる高齢福祉・障害福祉・包括支援・社会福祉の総合相談窓口の設置が急がれるがいかがか。

8人目

3番

中 嶋 勝
(60分)

(7)市営住宅について

①本年4月の市営住宅入居登録募集にて、市営住宅全体と高齢者住宅でのそれぞれの応募件数を聞く。

②今後の市の高齢者住宅施策を聞く。

2. 青少年のインターネット依存対策について

(1)小・中学生それぞれの携帯の所有率を伺う。

(2)小・中学生それぞれのスマートフォンの所有率を伺う。

(3)携帯電話・スマートフォンの所有について、保護者から学校に対して相談や要望など、どのような声が上がっているか。

(4)携帯電話・スマートフォンの所有について、学校から保護者に対して指導や要望などを行なっていることはあるか。

(5)小・中学生が携帯電話・スマートフォンを所有することによる具体的な悪影響、弊害として、どのようなものがあるか。

(6)児童・生徒を対象とした学校での教育について伺う。

①携帯電話・スマートフォンの所有について、学校側ではどのように考えているか。

②依存に陥らないために、どのような取組みを行なっているか。

③セーフティー教室の実施などでどのような効果が現れているか。また、どのように意識の変化があったか。

(7)携帯電話・スマートフォンの所有について、一義的には、家庭内での約束事やルール作りなどが重要であることから以下、伺います。

①保護者を対象としたセーフティー教室などのセミナーでは、どのくらいの保護者が参加しているか。

②それに参加した保護者からはどのような声が上がリ、どのように意識の変化があったか。

③家庭教育をサポートする大きな取組みが必要では。

(8)ネット依存対策として、市としての取組みと、刈谷市のような使用制限など、規制に対する考えを伺う。

1. 機能的な地域包括ケアシステム構築へ

(1)機能的な地域包括ケアシステム構築へは、高齢者それぞれのニーズを的確に把握することが最重要であると思う。まずはニーズ調査と徹底した分析をするべきではないか。

6月10日

(2) 地域包括ケアシステムの根幹を成す地域包括支援センターの体制の強化について

①高齢者が現在約 12,600 人。年々増えると予想されることから早めに当センターを 2 か所から 3 か所へと増設を望むが、どのような段階で増設となるのか。

②将来的にもさらに重責を担うことになる当センター。さらなるスキルの向上や組織体制の強化充実を望むがいかがか。

③認知症の早期発見・診断へ 2015 年度から認知症の専門家チームを設置とのこと。現在の要員に加え、認知症治療の専門医師も必要になる。最優先で人材の確保をするとともに認知症対策を強化すべきではないか。

(3) 本システムで重要な役割を果たす医療。医師会との連携が鍵となることからどういう協議の場があり、具体的にどう進めていくのか伺う。

(4) 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境の整備へ

①買い物等生活支援のためのサービスはこれまでどう進展してきているか。

②在宅のメリット、入居施設のメリット、この両方を併せ持つ第三の住まいとして空き家を活用したグループホーム等が話題を呼んでいるが、市は今後を見据えどのように考えるか。

③単身高齢者らの賃貸住宅への入居を円滑にするため、連帯保証に関するサービスや安否確認等の入居支援も今後必要になると考えるがいかがか。

④地域と交流が少ない一人暮らし高齢者が増えることも問題視されている。地域の見守りの構築やボランティアの体制をどのように考えているか。

(5) 介護のための離職率が今後高くなっていく懸念があるが、介護休業と介護休暇を利用しやすい環境づくりが課題と思われる。市としても企業に対し普及啓発が必要ではないか。

(6) 最終的に地域包括ケアシステムの形は、各自治体が地域の特性に応じた政策や課題解決努力によるところが大きいと思う。和光市など先進自治体やモデル事業地の視察を含めた調査研究に力を入れるべきではないか。

2. 脊柱側弯症の早期発見へ

(1) 脊柱側弯症に対する学校検査はどのように行われているか現状を聞く。

(2) 過去 5 年間における検査結果と全国及び東京都と比較して市の状況はどうか。また、市は脊柱側弯症についてどのような考えかを聞く。

(3) 学校医、医師会はこの脊柱側弯症に対しどのような認識なのか。

9人目

8番

橋本弘山
(60分)

- (4)現状よりも発見率を高めるため、一次検査に体の凹凸を映し出す特殊な写真によるモアレ検査の導入を検討してはどうか。
- (5)一次検査で精密検査が必要となった対象者が全員受診していない。脊柱側湾症になる危険があるため、全員検査への取組み強化が必要ではないか。
- (6)正しい知識や対応が十分ではないようにみられる。教職員も含めた保護者への周知及び啓発をどう考えるか。

1. 介護保険サービス事業への民間企業参入について

- (1)ひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の増加をどのように見込んでいるか。
- (2)羽村市の65歳以上の高齢者のピークは何年後と見込んでいるか。
- (3)現在の各種介護サービス施設の利用状況をどのくらい把握しているか。
- (4)「サービス付き高齢者向け住宅」事業について、どのように理解されているか。
- (5)介護保険サービス事業に民間企業が参入することをどのように捉えているか。
- (6)その課題はどんなことが考えられるか。

2. 雨水対策について

- (1)雨水管きよの整備状況について
 - ①整備率はどのくらいか(10年前、20年前、現在)。
 - ②浸水頻度の高い地域や緊急性の高い地域はあるのか。
 - ③現在計画されている箇所はどこの地域で、その事業内容は。
 - ④整備率を上げていく必要があると考えるがいかがか、また今後の計画は。
- (2)住民が自ら防御する方策について
 - ①浸透柵設置の助成金の利用率は(過去5年間)。
 - ②この助成金について、市の見解は。
 - ③雨水貯水タンクに対する助成金について、市の見解は。
 - ④緊急の防御には「土のう」の活用が有効であると考えますが、市の見解は。
- (3)「地域防災計画」における浸水履歴のある地域への対策はどうなっているか。
- (4)「雨水排水計画」の策定を視野に入れ、雨水対策を進めていくべきと考えるがいかがか。

6月10日

10 人目

16 番

船 木 良 教
(60 分)

3. 音楽のあるまちづくりについて

- (1)「羽衣の堰」をもっと市民に親しんでもらうために
- ①リニューアルした後の J R 羽村駅との連携による「発車メロディー」を提案するが、いかがか。
 - ②小・中学校の吹奏楽等のレパトリーに「羽衣の堰」も加えてみたらいかがか。
 - ③様々なイベント会場での B G M にこの曲を利用したらいかがか。
 - ④歌唱コンテストの様子を生中継で放映してみてもいかがか。
 - ⑤今後、この歌をどのように広めていくのか、また活用していくのか。
- (2)羽村市出身のプロの音楽家やロックグループの活動を応援していくために
- ①これら羽村出身の個人、団体を把握しているか。
 - ②羽村市民との交流を通じてプロの本物の歌声や演奏を聴く機会を設けたらいかがか。
 - ③市として積極的に応援していくことを考えているか。
- (3)文部省唱歌を歌い継いでいくために
- ①音楽の授業で文部省唱歌はどのくらい学ぶ機会があるのか。
 - ②唱歌に親しみ、後世に歌い継ぐことは重要と考えるがいかがか。
 - ③重要と考えるならば、それをどう授業に取り入れていくのか。
- (4)「音楽の重要性」をどのように考えているか。
- (5)羽村市も「音楽のあるまち」事業を推進し、様々な分野で音楽を自然に取り入れられるような雰囲気醸成を望むものであるが、市の考えは。

1. 公有資産老朽化問題への対応

(1) 公共施設更新問題

- ①全国的に公共施設更新問題が重要課題とされているが、羽村市の取組み状況はどうか。
- ②学会や研究会の動きも活発だがどう考えるか。
- ③羽村市公共施設白書作成について、意義や白書に掲載する情報についてどのように考えているか。
- ④人口、都市化、産業等の将来予測は各関連施設問題と切り離せないと考えるがどうか。
- ⑤自治体規模についても関連すると考えるがどうか。

6 月 10 日

11 人目

17 番

門 間 淑 子
(60 分)

(2) 公共施設の整備計画

- ①市内各地の公共施設に関する再生戦略を立案する情報はどうか。
- ②専門家（有識者）・行政（公）・市民（民）等で構成する、(仮称) 公共施設運営研究会の設置はどうか。
- ③公共施設老朽化への対応は、単体の自治体政策と広域自治体政策があると考えてどうか。
- ④インフラの長寿命化に関する基本計画・総合管理計画との関連はどうか。
- ⑤大学や専門家・研究機関で注目されている P P P ・ P F I 及び V F M についてどう考えているか。

1. 西口区画整理は抜本の見直しを

- (1) 西口区画整理事業の事業計画変更に対し、東京都都市計画審議会に、912 通もの意見書が出され、口頭陳述の申立ては 350 名もあった。市長は、どのように受け止めているか。
- (2) 27 年度には、事業費・事業期間が全て明らかになるのか。
- (3) 東京都都市づくり公社への委託費内容が解りにくい。区画整理の専門職職員を採用してはどうか。

2. 共通番号制度の準備状況について（その 2）

- (1) 共通番号制度実施を担当する部署はどこか。
- (2) 実施に向けた会議や職員研修はどのようになされているか。
- (3) 共通番号制度の運用に責任を持つのは、国か基礎自治体か。
- (4) 個人番号の付番と個人番号カードの交付は法定受託事務、その他の事務は自治体の行う自治事務となるのか。
- (5) 共通番号制度を利用しなければ実現できない事務は何か。
- (6) DV 被害者など「特別な事情により住民基本台帳に記載されている住所に通知カードを送付することが適切ではない者」をどのように判断し、対応するのか。
- (7) 既存システムに対する番号制度影響評価は実施しているか。
- (8) 特定個人情報保護評価は、いつ、どのような項目でなされるのか。
- (9) 情報漏洩が危惧されるが、緊急時の対応を条例規定する考えはあるか。
- (10) 市民への説明について、広報や公式サイトで周知すると答弁だったが、不十分と考える。市民説明会を開く考えはないか。

6 月 10 日

1. 羽村市の非正規公務員雇用の実態を問う

- (1) 羽村市の非正規公務員の割合は何%か。東京 26 市の平均は何%で羽村市は何番目に高いか。
- (2) 学童指導員、図書館職員、学校給食関係職員、保育士非正規公務員の割合はそれぞれ何%か。
- (3) 羽村市の非正規公務員の時給の平均、年収の平均額はいくらで、東京 26 市で何番目に高いか。
- (4) 羽村市の正規職員の年収の平均額はいくらで、東京 26 市中何番目に高いか。
- (5) 羽村市の非正規公務員は、年金、保険はどのような扱いになっているか。
- (6) 過去 10 年間で、非正規公務員から正規職員になった例は何件あり非正規職員の中の何%か。
- (7) 市長は、現状の羽村市の正規職員と非正規公務員の数のバランス、待遇のバランスは適当と考えているか。
- (8) 今後、羽村市では、定年により大量の退職者が出る。事業・サービスの継続性という点で、懸念があるがどう対応する考えか。

2. 羽村市少年少女球技大会、社会参加実践活動（清掃活動）は、主催者がより広く趣旨を伝えるとともに、これまでの成果を検証し、今後のあり方を模索すべきではないか

- (1) 羽村市少年少女球技大会、社会参加実践活動（清掃活動）の主催者はどこか。
- (2) 羽村市少年少女球技大会について、市ウェブサイトで、事業の目的を説明しているが、そうした趣旨は、子ども達や保護者、地域の皆さんに十分説明できているか。
- (3) 町内会・自治会単独のチームは、今年度の登録で、ソフトボール、キックボール、それぞれ全チームの中の何チームか。
- (4) 社会参加実践活動（清掃活動）の参加者はここ数年どう推移しているか。ソフトボールやキックボールに参加していない子ども達に、どう趣旨を説明し参加を促しているか。
- (5) 社会参加実践活動（清掃活動）は、中学生の参加者は何人か。また、各中学は、どう対応しているか。
- (6) 羽村市少年少女球技大会、社会参加実践活動（清掃活動）の、これまでの実績をどう評価しているか。
- (7) 参加者が少なくなっているが、今後工夫すべきことや、改善点、変更する点は無いか。
- (8) 東京 26 市の中で、市が主体となってこうした活動をしている例はどれほどあるか。

3. 羽村駅西口土地区画整理の事業計画変更に伴う意見書について問う

- (1) 912 通の意見書があり、口頭陳述の申し立てが

13 人目

15 番

水 野 義 裕
(60 分)

- 350 人からあったと聞くが、市は、そうした意見書の内容を、把握しているか。
- (2) 事業の進め方についての批判が多いが、これまでの市の進め方に反省点はないか。
- (3) 高齢化等に伴い、換地、移転補償、清算金等について心配する声が多くあるが、今後、どう説明していく考えか。

1. 市民の健康維持について

- (1) 市民の健康に関するデータを収集・分析し施策に反映しては。
- ① レセプトデータを分析し、傾向を把握・施策へ反映していると思うが、どのような点でどのような効果が出ているか。
 - ② はむら健康の日のここ 3 年の来場者数は。
 - ③ はむら健康の日・市民体育祭などでの、健康チェックのデータなどを、本人の了解を得て収集・分析してはどうか。
 - ④ 低学年にロコモティブシンドローム予備軍がいるとの報道があったが、子どもの体の異常について、把握しているか。
- (2) 健康づくりアンケートについて
- ① 対象が 30 歳台から 50 歳台となっている背景は何か。
 - ② 対象に、20 歳台や 60 歳台前半も含めるべきではないか。
 - ③ アンケートの自由意見には様々なものがあるが、これらを分類・分析し有効と思われるものは施策に取り入れるべきではないか。
 - ④ とくに情報提供について要望が多いように思う。市の公式サイトを通じた提供を積極的に進めてはどうか。

2. 義務教育への情報通信技術の活用はどこまで進んだか

- (1) コンピュータ室のパソコンは役に立っているか。
- ① コンピュータ室のパソコンは、どのくらいの頻度で、どんな教科で使われているか。また、それは所期の目的を果たしているか。
 - ② 教師が開発した電子教材はあるか。あればそれらは教師間で活用されているか。
 - ③ さらに有効に活用するための課題は何と考えているか。またそれにどう取り組むか。
- (2) 大型ディスプレイなどの表示装置は役立っているか。
- ① 大型ディスプレイは、どのくらいの頻度で、どんな教科で使われているか。また、それは所期の目的を果たしているか。

6 月 11 日

14 人目

5 番

鈴木拓也
(60 分)

- ②さらに有効に活用するための課題は何と考えているか。またそれにどう取り組むか。
- (3) タブレットの活用について
- ①タブレットを大量に導入して活用している事例が増えているが、その長所・短所を市はどのように考えているか。
- ②今後はコンピュータよりもタブレットを導入し、その活用に進むべきではないか。
- 3. 行財政改革基本計画の実施計画について**
- (1) 市民満足度調査について
- ①市民課窓口アンケートの結果はどうであったか。
- ②イベント実施時にアンケートをとったイベントは何か。また、その結果はどうか。
- (2) 公共施設駐車場の有料化について
- ①有料化の調査・検討の結果はどうなったか。
- ②今年度は方針の決定が予定されているが、市民への周知を含めたスケジュールは。
- (3) 専門的分野に特化した業務委託の再構築について
- ①委託業務の調査結果はどのようなものか。
- ②区分方法の検討結果はどうなったか。
- ③委託した業務に対する評価方法などについてどう考えているか。
- (4) 法定受託事務の超過負担削減について
- ①これまでにどのような事務が該当すると分析したか。またその負担額はいくらか。
- ②国や都にどのように働きかけたか。また負担額は削減できたか。
- (5) 定員管理について
- ①西多摩4市の総職員数は。また職員一人当たりの市民数は。
- ②西多摩4市の平成28年度の総職員数は。
- ③市の業務量が現在そのまま推移するとしたら、どこまで削減しなければならないと考えているか。

1. 横田基地はどうなっているか

- (1) 「飛行機の騒音がうるさい」との声を聞く。最近の飛行回数はどうなっているか。
- (2) 市内上空を低空飛行するケースが増えていると感じる。実態はどうなっているか。
- (3) 航空機の高度調査を国に対して働きかけたが、どう進ちょくしているか。
- (4) 学校、保育園、幼稚園などで、騒音が活動の障害になってはいないか。
- (5) 横田基地へのオスプレイ配備問題は、その後、どうなっているか。

6月11日

15 人目

1 番

印 南 修 太
(45 分)

(6) 自衛隊横田基地の現状は、どうなっているか。
機能強化などはなされていないか。

2. 羽村駅西口区画整理事業はどうなっているか

- (1) 事業計画変更にもなう東京都への意見書が 912 通提出された。どうして、これほど多くの意見書が提出されたと考えているか。
- (2) 意見書の中で、口頭陳述の申し出を行った人が 350 名もいる。どうして、これほど多くの人が申し出を行ったと考えているか。
- (3) 依然として、たいへん多くの市民がこの事業に異議・反対の声をあげている。抜本的な見直しが必要ではないか。
- (4) 25 年度に作成した「工事全体計画」「建物等移転計画」はどのような特徴をもつ内容になっているか。

3. 暮らしが厳しい子育て世帯へ暖かい施策を

- (1) 生活保護制度の「改正」が行われた結果、来春からの就学援助制度の基準はどう変化するか。
- (2) 就学援助の基準を広げ、より多くの世帯が利用できるようにすべきではないか。
- (3) 市民から好評を得、年間 300 万円を使っていた「高校入学時奨学金」を廃止し、それをステップアップしたという「入学資金利子補給制度」は今年度 59 万円の予算となっている。あらためて、生活が苦しい子育て世帯へより利用される奨学金制度をつくるべきではないか。
- (4) 「保育料の適正化」は今後、どのようなスケジュールで検討されるのか。値上げを行うべきではないと考えるが、市の考えはどうか。
- (5) 「認証保育園などの保育料」と「認可保育園の保育料」との差額補助制度の多摩地域での実施状況はどうなっているか。羽村市でも実施すべきと考えるがどうか。

1. 市の産業振興について

- (1) 羽村駅西口の商業振興について
 - ① 羽村駅西口の平均乗降者（1 日）は何人か。
 - ② 西口エスカレータ前の先行取得用地に仮設店舗をつくれぬか。
- (2) にぎわい商品券事業について
 - ① 福生市が実施している「子育てまるとくカード」を参考にし、にぎわいカードをつくり、事業を進展させられないか。
- (3) 産業福祉センターの活用について
 - ① 平成 25 年度の施設の平均稼働率は何%か。

6 月 11 日

16 人目

9 番

山 崎 陽 一
(60 分)

- ②市民と協働で、女性の再就職支援セミナーを定期的に開催できないか。
- ③企業と協働で、次世代エンジニア育成のため、工学セミナーを定期的に開催できないか。

6 月 11 日

1. 区画整理撤回要求 第 29 弾

(1) 355 億円の事業、全市民のためになりますか？

- ①平成 15 年の事業計画決定時、都計審から「関係者にさらに充分説明するように」との異例の付帯意見をつけられた。10 年経ても多くの反対意見が東京都に届けられたということは、付帯意見の無視ではないか。
- ②都市計画審議会で都担当者は「羽村駅西口地区は基盤整備が立ち遅れている」と発言した。認識が誤っていないか。
- ③土地権利者の会での配布資料と、事業の今後についてどのような説明をしたか。
- ④西口土地区画整理審議会の開催が広報紙に載せられていない。羽村市審議会等の設置及び運営に関する指針に反していないか。
- ⑤区画整理審議委員へ審議会の 10 日前に配布されるべき資料が、請求されるまで提供されなかった。議会答弁に反していないか。
- ⑥西多摩建設事務所の羽村大橋拡幅計画ではモノレールは想定していないようだ。広い導入スペースを持つ区画整理計画との整合性が無いのではないか。
- ⑦先行取得用地が鉄パイプ柵で囲われ美観を損ね、心理的圧力も感じる。有効利用するはずではなかったか。
- ⑧行政の目的は市民生活向上だ。財政悪化の中で市税 240 億円を投入する区画整理事業が全市民の幸福実現にどのように寄与するかを具体的に問う。

2. 市内の人口減少予測と対策を聞く

- (1) 国の推計で 25 年後の平成 52 年羽村市人口は 4 万 9524 人と 16%減少。要因は何か。
- (2) 15 歳～64 歳の生産年齢人口は 25 年後は 25%減少。市税収入にどう影響するか。
- (3) 0 歳～4 歳の幼年人口が 2350 人から 1674 人と 30%減少。小中学校の統合もあるか。
- (4) 人口減少を、第五次長期総合計画にどう反映させていくか。
- (5) 人口の現状維持を前提の施策か。人口減少を前提に縮小型の街づくりか。

(6) あきる野市総合計画は将来人口を 11 万人から 8 万 1000 人に見直した。羽村も検討すべきではないか。

(7) 福生市では職員が人口問題研究会を作り原因と対策を検討した。羽村市ではどうか。